



2025年度

重慶市青少年交流訪問団 報告書

公益財団法人水戸市国際交流協会

目 次

はじめに	1
訪問都市のプロフィール	2
団員名簿	3
経路図	4
日程表	5
行動の記録	7
団員報告書	23
Q&A	55
資料編		58
(1) 水戸市と重慶市の交流	60
(2) 友好交流都市提携合意書	63
(3) 訪問団員募集チラシ	64
(4) 訪問団員募集要項	65

はじめに

水戸市と中華人民共和国重慶市は、2000 年に友好交流都市の盟約を締結しました。以来、相互に訪問を重ね、友好を深めてきましたが、2020 年以降、新型コロナウィルスの世界的な流行により、直接的な交流ができない時期が続きました。

2024 年に入り、重慶市は「@重慶@世界『継承と革新、手を携えてともに前進』日本友好都市青少年交流活動」と題する青少年交流事業を企画し、水戸市と広島市の青少年を招待しました。水戸市からは 14 名の青少年が、重慶市を訪問いたしました。

この青少年交流の成功を受け、2025 年も引き続き同様のご提案をいただき、今回は、水戸市からは 10 名の青少年が、訪問いたしました。

本年度は、広島市とは時期を違えての少人数での訪問となりましたが、結果として、水戸市と重慶市の青少年交流は、より濃密なものとなりました。

重慶市滞在中は、重慶市人民政府外事弁公室の皆さまをはじめ、四川外国语大学附属中学校の皆さま、重慶工商大学の皆さまに心よりのおもてなしをいただくとともに、日本と中国の友好都市の若者たちが交流し、お互いの国や都市、人々のことについて理解を深めるこの上ない機会を提供いただきました。また、在重慶日本国総領事館を訪問することについても、重慶市人民政府外事弁公室の皆さまのご協力により滞在中のプログラムに組み込んでいただき、団員が見識を広げる機会を得ました。これらの活動を通じて、水戸市と重慶市、両市の友好を深めることができ、団員それぞれにとっても、将来に向けての糧となる貴重な体験の場となりました。

この報告書は、今回の訪問の記録と団員それぞれが覚えた感懷を綴ったものであり、またこの報告を通して、訪問実現のためにご尽力くださった重慶市の皆さま、在重慶日本国総領事館の皆さまをはじめ関係者の皆さまに感謝の意を表するものであります。

訪問都市のプロフィール

重慶市

人口約 3200 万人（水戸市の約 120 倍）を誇る、中国最大の都市。1997 年に四川省から独立し、北京・天津・上海に続く 4 番目の直轄市（省と同格）となりました。中国西南部最大の商工業の中心地で、長江上流の経済の中心地です。市街区は長江と嘉陵江の合流地点にあり、四方は山に囲まれ、山城、江城、霧の都、とも呼ばれます。



1985(昭和 60)年、孫平化中日友好協会副会長(当時)が水戸市を訪問したことをきっかけに、相互に訪問を重ねました。とりわけ 1993(平成 5)年に水戸市で開催された第 10 回全国緑化フェアに、重慶自然博物館所蔵の恐竜化石の出展を重慶市に要請し、重慶市人民政府や中国国家文物局などの支援を得て水戸市が出展した「恐竜館」が多くの入場者を集めたことを契機に両市の人的交流が進みました。

1999(平成 11)年に重慶市からの訪問団が水戸を訪れた際、それまでの交流の経緯を踏まえ、西暦 2000 年の節目に友好関係を締結することが提案され、2000(平成 12)年 3 月、市議会定例会の本会議で、友好交流都市提携についての議案が満場一致で可決されました。同年 6 月に岡田広市長(当時)を団長とする使節団が重慶に派遣され、友好交流都市提携合意書の調印が行われました。それ以降、相互に訪問団を派遣するなど交流が続けられています。

2025（令和 7）年、水戸市と重慶市は、友好交流都市提携 25 周年を迎えました。

2025 年度 重慶市青少年交流訪問団 団員名簿

(敬称略)

No.	団員/随行	氏 名	備 考
1	団員	大 武 真 菜	社会人
2	団員	岡 田 百 花	学 生
3	団員	倉 澤 晃 子	社会人
4	団員	鈴 木 穂一郎	社会人
5	団員	高 橋 美沙希	学 生
6	団員	富 岡 淳	社会人
7	団員	古 河 千 佳	社会人
8	団員	松 川 のぞみ	社会人
9	団員	村 田 夢 果	学 生
10	団員	吉 川 千 絵	学 生
11	随行	菊 池 浩 康	国際交流協会 事務局長
12	随行	王 偉 亜	国際交流協会 シニアアドバイザー

【経路図】



重慶市青少年交流訪問団　日　程

日次	月日(曜)	現地時間	交通機関	行　程
1	9/1 (月)	14:00 14:15 15:50 19:45 23:10 0:10 0:30	専用バス CA434	水戸市国際交流センター集合 水戸市国際交流センター発 成田空港着 成田空港発→重慶へ(所要約4.5時間) 重慶江北国際空港着(以下現地時間) 重慶江北国際空港発→ホテルへ ホテル着 ＜重慶泊＞
2	9/2 (火)	10:20 12:00 13:30 15:30 17:00		鵝嶺(がれい)公園：見学 重慶市外事ビル：歓迎昼食会 ホテルにて休憩 重慶市規劃展覽館：見学 下浩里老街：見学・夕食 ＜重慶泊＞
3	9/3 (水)	9:30 11:00 12:00 14:00 15:15 18:00 19:30 21:00		重慶動物園：見学 李子壩駅：見学 ホテルにて昼食 在重慶日本国総領事館：総領事と面会 重慶大爆撃「六五」トンネル虐殺事件史実展示館：見学 ホテルにて夕食 嘉陵江(かりょうこう)の川面に移る洪崖洞(ほんやどん)などの夜景：見学 ホテルにて「みとちゃんダンス」練習 ＜重慶泊＞
4	9/4 (木)	9:00 13:30 16:00 18:45		四川外国语大学附属中学校訪問：校内交流活動、昼食 ホテルにて休憩 磁器口老街：散策 ホテルにて夕食 ＜重慶泊＞
5	9/5 (金)	9:30 10:30 12:00 14:30 18:00		九龍坡区民主村：見学 商業施設散策 重慶火鍋体験 重慶工商大学訪問：青少年交流会 学校内の食堂にて交流夕食会 ＜重慶泊＞
6	9/6 (土)	10:00 10:30 13:05 18:45 20:00 21:30	CA433 専用バス	ホテル発→重慶江北国際空港へ 重慶江北国際空港着 重慶江北国際空港発→成田へ(所要約4.5時間) 成田空港着(以下現地時間) 成田空港→水戸へ 水戸市国際交流センター着

※利用航空会社：中国国際航空(CA)

※ホテル：重慶サマセット長江サービスアパートメント

行動の記録



9/1
Mon

1日目

成田空港→重慶江北国際空港



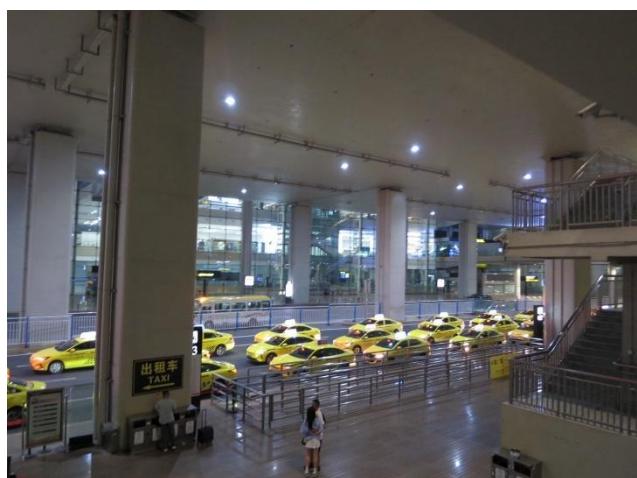
いざ出発！！



機内から見える重慶の夜景



深夜到着にもかかわらず、ここで袁さん(外事弁公室のインターン生)が出迎えてくれました……！



出待ちタクシーの多さにビビる(※深夜0時です)



9/2
Tue

2日目

鵝嶺公園



市民が卓球をする様子が見られるのも、
中国ならでは。

富豪の別邸だった鵝嶺公園は軍司令部時代を経て、
市民のための公園になりました。



«飛閣»

歴史ある建物は改装され、民国期の様子を
伝えるような内装となっています。





公園は高台にあり、
重慶市街地を一望できます。



「鷺嶺」の名はその地の形状が鷺鳥の首に似ていることからつけられたそうですよ！

重慶市政府による歓迎昼食会



辛くない重慶料理の
一つ！お肉の旨味と
かぼちゃの甘味の
コラボレーションが
すばらしい一品 ♡



唐辛子の山から
お肉やナッツを
探して食べるのが
この料理の楽しみ方
だそうです♪

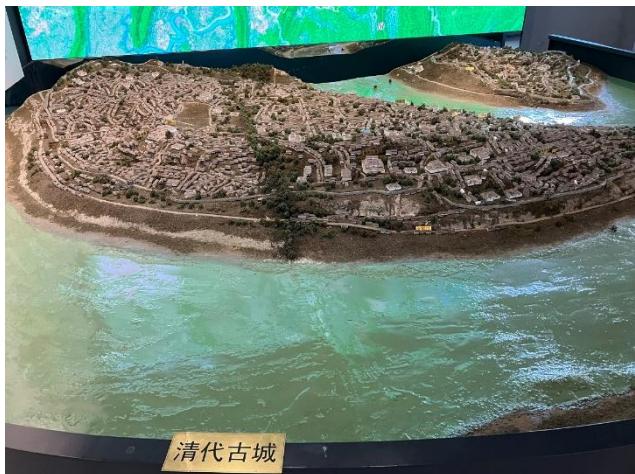


重慶市規劃展覽館



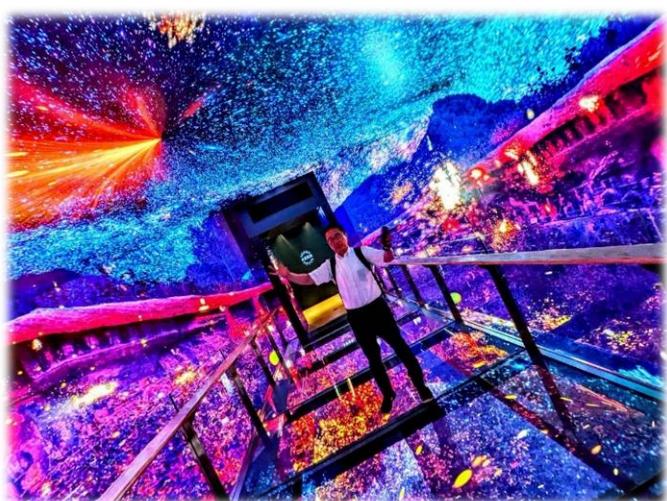
「新時代 新征程(道のり) 新重慶」は有名な写真スポット

歴史、地形などから重慶の理解を深め、重慶のこれからを知ることができる施設



高層ビル群になる前の重慶はこんな感じでした

この場所は長江と嘉陵江の合流地点
川の色の違いを見られます！



こんな映え写真も
撮れちゃうよ！

下浩里老街



昔の街並みを活かした
若者向けの個性豊かなお店が並ぶ
観光スポット



老街のなかにある、
フュージョン中華のお店の料理
見た目にも美味しい！



夜になると
ライトアップされ、
幻想的な風景を
楽しめます

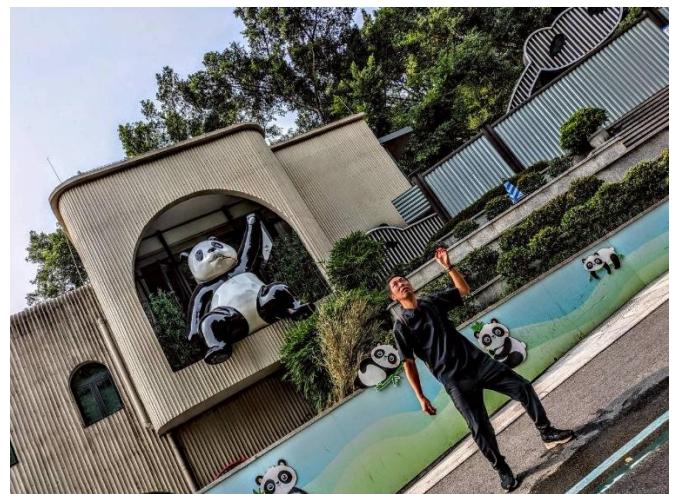
9/3
Wed

3日目

重慶動物園



パンダとレッサーパンダの楽園が広がっていました♪



パンダは本場中国でも大人気！

パンダといっしょに、はい、ポーズ！



李子壩駅

旅行客が発見した重慶新名所。
建物の中にモノレールが
突っ込んでいく様は圧巻！
ただし、重慶の人にとっては当たり前の
光景で、珍しく感じないのだと。

在重慶日本国総領事館

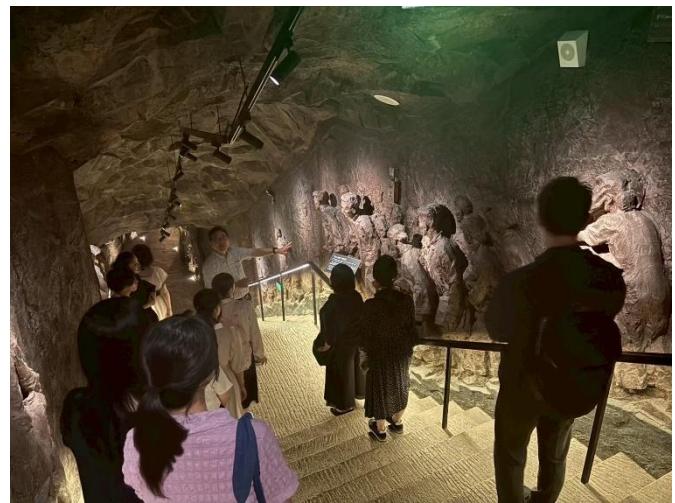


中国や重慶のこと、外交官のお仕事について、お話を伺いました



重慶大爆撃「六五」トンネル虐殺事件史実展示館





第二次大戦中、日本が重慶に対して突如行った爆撃により、
慌てた多くの市民が防空壕に逃げ込み、その中で犠牲になりました。
当時のデータや写真などを基に展示物が構成され、
当時の様子を追体験できるような施設になっています。



重慶の夜景

橋の近くにあるオレンジ色の光の集合体は「洪崖洞」という有名な観光スポット。ビルの文字は時間ごとに変化します。





重慶の街に電灯をもたらした富豪、李耀庭の公館もあります。鵝嶺公園はもともと富豪の別邸でしたが、それはこの李耀庭の息子たちが、父のためにつくったものです。



Wechat Pay で支払いをしていったら募金が当たりました(！)
当たった1元を、中国全省の様々なプログラムから選んで募金することができます。



予想を超えてきた食品第一位。ヤマイモときゅうりのチップスって美味しいの？と思ったそこのあなた。ぜひ食べてみてください。美味しいです。



無線充電スポット。
信号そばに設置されており、なんと信号待ちをしながらスマホを充電できます。

9/4
Thr

4日目

四川外国语大学附属中学校



資料室見学



四川外国语大学附属中学校:合唱・朗誦



水戸市:みとちゃんダンス



四川外国语大学附属中学校:日本・重慶市の紹介



切り絵体験・交流



ランチ@食堂



記念撮影

磁器口老街



重慶市の古い街並みを見学



餅つき体験



演劇・変面のパフォーマンスを鑑賞

9/5
Fri

5日目

九龍坡区民主村



重慶火鍋

最先端のシステムを見学



重慶市外事弁公室・徐星さんが火鍋の辛さを控えめに注文してくださり、2種類の味を堪能しました。

重慶工商大学



水戸市:プレゼンテーション・みとちゃんダンス



重慶工商大学:歌唱



グループで交流



香り袋作りを体験



資料室見学



逐梦新时代



写真撮影

9/6
Sat

6日目 重慶市→水戸市

重慶江北国際空港



成田空港発→水戸へ



SPECIAL
THANKS



團員報告書



重慶で出会った温かさと学び

大武 真菜

今回、重慶市青少年交流訪問団に参加し、最初に圧倒されたのは街のスケールの大きさでした。視界いっぱいに広がる高層ビル群はまさに近代都市そのものでしたが、その一方で歴史ある街並みや伝統的な文化も息づいており、新旧が見事に融合していました。その景観は一言で表せない独特の魅力を放っており、歩くたびに新たな表情を見てくれる街の奥深さに、時間を忘れて夢中で散策してしまいました。



また、地形の特徴も重慶ならではでした。急な坂道や階段が街全体に広がり、移動の途中で街中に設置されたエレベーターを利用するという体験は非常に新鮮でした。さらに蛇行して延びる道路や立体的に交差する橋の数々は、日本ではほとんど見ることのできない光景で、この都市が「唯一無二」であることを実感しました。

交流の場面では、旅行者としてではなく団員として現地に迎え入れていただいたことが何より貴重でした。外事弁公室の皆さまによる温かいおもてなしや、学生たちの笑顔は忘れない思い出です。特に中学生による『千と千尋の神隠し』のパフォーマンスは強く心に残っています。「日本をもっと知りたい」「日本語を上手になりたい」という純粋で真っ直ぐな気持ちが伝わり、胸が熱くなり涙が止まりませんでした。当初、中国の人々は日本に良い感情を持っていないのではないかと不安に感じていた私にとって、その姿は固定観念を大きく覆すものであり、心の距離が縮まったと感じる温かい瞬間でもありました。

さらに、外事弁公室で働く方々の姿からも大きな学びがありました。自分のやりたい仕事にたどり着きながら、家庭や子育てにも全力で取り組む姿は非常に力強く、「ライフステージが変化しても、自分のやりたいことを諦めないで」という言葉は強く心に残りました。これは自分自身の生き方を見つめ直すきっかけとなり、今後の進路や人生を考えるうえで大きな支えになると感じています。



この交流を通じて、ニュースや政治の報道だけでは見えてこない、人々の温かさに触れられたことは、何よりの財産です。帰国後もWeChatを通じて、中学生や大学生、外弁室の方々とやり取りを続けています。彼らが日本、特に私の暮らす茨城に来てくれる日を心待ちにしつつ、その時には重慶で受けたおもてな

しに負けない精一杯の歓迎をしたいと強く思っています。そのためにも中国語をさらに磨き、いつでも交流できるよう準備を続けたいです。

今回の派遣は、自分のやりたいことや興味を改めて見つめ直す大切な機会となりました。重慶での経験は単なる一度きりの訪問ではなく、今後の人生においても国際交流を続けたいという思いへとつながっています。そして、今回の派遣で得られたご縁を大切にしながら、今後も両市の温かい交流が続いていくことを願っています。最後に、この貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

出会いと発見にあふれた重慶訪問

岡田 百花

この夏、私は青少年交流訪問団として中国の重慶を訪れる機会を得た。行く前は不安も少なからずあったが、実際にはとても楽しい6日間の旅となった。

到着してすぐに宿泊施設の部屋の窓から長江を見て、教科書で何度も見た川を実際に目の当たりにして胸が高鳴った。

磁器口では伝統芸能「変面」を間近で鑑賞することができた。演者が一瞬で仮面を変える技術はまさに圧巻で、目の前で繰り広げられる迫力あるパフォーマンスに思わず息を呑んだ。中国文化の奥深さと芸術性の高さを実感した瞬間だった。

また、重慶の街を歩いて驚いたのは、その土地の高低差である。ビルの間に階段が続き、エレベーターやケーブルカーが日常的に使われている様子は、日本ではあまり見られない光景だった。都市と自然が複

雑に絡み合った地形は、まるでダンジョンで、歩くだけでも冒險しているような気分になった。

食文化も印象的だった。名物の火鍋は、見た目からして辛そうだったが、実際に食べてみるとその辛さの中に深い旨味があり、クセになる味だった。日本ではあまり見かけない食材も多く入っていて、初めての食体験であった。他にも毎食おいしい食事をごちそうしていただき、回転テーブルでの食事も体験した。はじめは山椒などの香辛料の強い香りに驚いたが、滞在を重ねるうちにその風味にも慣れ、帰国する頃にはすっかり好きになっていた。



滞在中には地元の市場やショッピングモールを歩いて買い物も楽しんだ。現地の人々はとても親切で、言葉が通じなくても笑顔で対応してくれたことが印象的だった。異国でありながら、嫌悪感を抱くことは一度もなく、安心して過ごすことができた。

動物園では、パンダやレッサーパンダを見ることができた。どちらもとても可愛らしく、特にレッサーパンダの走り回る姿に癒された。

教育機関の訪問も貴重な経験だった。四川外国语大学附属中学校では、日本語を学ぶ生徒たちと日本語で会話できたことが嬉しかった。重慶工商大学では、英語を使って語り合いながら楽しく文化体験や食事をした。両校が準備してくれたパフォーマンスはそれぞれ非常にレベルが高く、文化交流の場として素晴らしい時間を過ごすことができた。

夜には、重慶の夜景に魅了された。高層ビルが立ち並ぶ中、ライトアップされた橋や川沿いの景色が幻想的だった。そこには昼間とは違う顔を見せる街の美しさがあった。

正直なところ、訪問前は中国という国に対してあまり良いイメージを持っていなかった。しかし、今回の旅を通してその考えが偏見によるものであったことに気付かされた。人々の温かさ、文化の豊かさ、そして交流の楽しさを実際に体験することで、「百聞は一見に如かず」という言葉の意味を深く実感した。中国の方々が日本の景色やポップカルチャーなどについて熱心に語り、称賛してくれたことが印象的で、自分自身も改めて日本の良さを再発見するきっかけとなった。重慶での経験は、私の視野を広げ、相互理解の大切さを知るきっかけとなった。



中国に対する認識の転換－重慶訪問を通して－

倉澤 晃子

深夜12時、重慶江北国際空港に降り立った私を、中国三大かまどと表現される熱気が包み込んだ。我々訪問団を出迎えてくれた中国の大学院生は、今が深夜であることを忘れるような力強さで私の手をにぎって言った。

「欢迎！（ようこそ！）」



空港からホテルへ向かうバスの車窓から、光の洪水のような夜景を見た。三峡ダムから送られる潤沢な電力により彩られる高層ビル群。その合間を立体的に縫うように道路が伸び、夜更けにもかかわらず多くの自動車が走っていた。その中には自動運転のためか、ハンドルを握らず、ゆったりと運転席でくつろぐドライ

バーも見える。重慶の先進性と豊かさを感じる、最初の光景である。

私はこれまでにも何度か中国を訪れたことがある。1度目は約30年前、東北部にある大連と瀋陽だった。その後、北京や上海、水墨画のような景色で知られる桂林にも行った。個人的な観光旅行もあったし、「接待」のような豪華で丁重なもてなしを受ける訪問もあった。しかしそのいずれの旅でも、その地における体験で何かしら引っ掛かりを感じ、ざらざらとした印象を私に残していた。中国は私にとって、縁がありながら好きになれない土地だった。

今回の訪問は、私がこれまで抱いてきたそのようなマイナスイメージを吹き飛ばすものだった。予定されたプログラムで訪れた場所はもちろんのこと、自由時間で歩いた街の人々からも活気を感じた。多くの清掃員があり、道路清掃車があり、常にまちなかを清潔に保っていた。「燃えるごみ」と「その他」に分けられたごみ箱がいたるところにあり、こうした衛生施策に関しては、水戸市がかつて多くの参考資料を重慶市に送ったと聞いた。



街のドリンクスタンドで購入したお茶はとびきり美味しく、カップや関連グッズのデザインは洗練されていた。お土産屋さんに行っても、どれも買いたくなってしまうような可愛いものやきれいなもので溢れている。スーパーで色んなお菓子を買ってみたが、帰国後食べたところどれも大当たりで、お菓子をあげた人にはみんなに「おいしい」と喜ばれた。

繰り返しにはなるが、今回の一週間の重慶訪問で経験したことは、私が訪れた10年前までの中国の印象を、180度ひっくり返すものだった。

このような経験ができたのは、シニアアドバイザーである王さんを始めとする水戸市国際交流協会の方々と、重慶市政府外事弁公室の方々のご尽力のおかげである。外事弁公室側の担当者である徐さんは、細やかな気遣いをもって本訪問行程を計画してくださり、国際交流協会の王さんが持ち前のバランス感覚と調整能力を発揮し、水戸市訪問団が楽しめるようにしてくださった。現場での徐さんの心くばりはすばらしく、暑くてバテ気味な私たちに、有名ドリンクスタンドの冷たくて美味しい飲み物を、絶妙なタイミングで手配してくださったときの嬉しさは忘れられない。空港で出迎えてくれた大学院生は外事弁公室のインターンシップであり、深夜の出迎え以来ずっと、訪問団の行程のほぼすべてに同行し、サポートしてくれた。また、私たちの通訳をボランティアで引き受けてくれた四川外国語大学4年生の「ゆあちゃん」もまた、毎日朝から夜まで私たちに同行してくれたのだが、いつもすてきな笑顔で私たちの疲れを癒してくれた。水戸市の訪問団は、多くの人の気遣いとあたたかさと、もてなしの心に支えられていた。訪問団にかかわってくださったすべての方に、心からの感謝を伝えたい。

最後に、ショッピングセンターでの一幕を書いて筆をおくこととする。

訪問団の一人が、うまく支払いができずトラブルになっていると私に電話をかけてきた。慌てて店に駆けつけた私に、店員はこのようなことを言った。

「焦らなくても大丈夫よ。うちの店のレジは中国のクレジットカードか、現金でないと支払いができないの。それはあなたたちが悪いのではなく、うちのレジの問題だから。」

そして、他店のレジで処理できないか、何店舗か電話して問い合わせてくれた。その間、ほかの店員は私たちにそっとコップの水を差し出したり、特に汗だくだった私にティッシュを渡したりしてくれた。

結局その場では解決せず、買いたいものは取り置きしてもらい、時間をおいてまた訪れるということになったのだが、そのときに聞いた中国語はとてもあたたかみがあり、困っている私たちを本当にどうにか手助けしようしてくれていることが心から理解できた。そのとき、中国語を自分が理解できるということが、とてもうれしく感じられた。これは今回の訪問の中で一番、「参加して良かった」と思った体験だった。

日本で見聞きする中国のニュースの中にはネガティブなものが多い。ぜひより多くの人に、実際に中国に行き、「自分の体験」を通して中国を見てほしい、と思う。



中国最大の消費の街「重慶」 ※日経新聞 9/8(月)16面 (2025年1～6月の社会消費品小売額（小売・飲食）国内No.1)

鈴木 穩一郎

私にとって中国とは、WBSや日経新聞で見るだけのもので、水戸市と重慶市が友好交流都市であるというのは知っていたが、どこか遠い存在であった。

そんな折、機会をいただき、令和7年度重慶市青少年交流訪問団に参加させていただくこととなった。

重慶は、人口3,000万人超えのメガシティで、北京市・上海市・天津市を含めた4つの直轄市のうちの1つである。

日経新聞によると、中国国内の2025年上半期の小売・飲食消費額で上海を上回り、下半期も同水準で推移した場合、中国随一小売・飲食消費都市となるそうだ。

後述する洪崖洞のライトアップが起爆剤となり、SNSに映えるとして、観光客が急増しており、中国の国内旅行地NO.1の座に登りつめるに至った。

団の訪問期間は9月2日（火）から6日（土）で、9月3日（水）は、中国において『抗日戦争勝利記念日』に当たり、天津市でパレードが行われていたが、重慶市内ではニュース・特集番組以外で影響を感じることはなかった。



1 行程内移動先

(1) 鵝嶺公園・廣島園

鵝嶺公園は、市民の心の故郷として親しまれており、ありのままの市民を見てほしいと伺い、重慶市民が卓球をしている姿が、千波湖をランニングして自分と重なった。

廣島園は、重慶で最も日本を感じられる場所で、重慶市と姉妹都市関係にある広島市が庭園文化交流の証として、贈った設計図を基に建設された日本式庭園を見学した。日本庭園特有の侘び寂びの心がありながら、瞰勝樓を模した松があるなど両市の精神が調和していた。

訪問団員との雑談で、「梅の木を植えるために、スペースが空いているようだ」と言

っている方がおり、園の雰囲気に馴染むように梅の木もあったら素敵だと感じた。



(2) 重慶市外事辦公室

外事辦公室を見て、迎賓館赤坂離宮を思い出した。日本では、床に赤い絨毯を敷くが、外事辦公室は、床も壁も全て白い大理石で統一され、煌びやかな雰囲気が演出されていた。

街中でも、統一された外観を見る事ができ、シェラトン重慶ホテルでは、外観が金色に統一されており、夜のイルミネーションも金色に彩られていた。

歓迎昼食会では、賓客をもてなすようなフルコースの中華料理を食べた。日本では、明確に飾りと分かるような料理が多いが、中国では、飾りや匂い付けのために入れている食材が多く、食べるためではない唐辛子が大量に入っているなど文化の違いを感じた。



(3) 重慶市規画展覽館

ここでは、重慶市の都市計画をモックアップなどで視認することができ、数十年単位で高度かつ急速に発展する重慶の基礎を見学した。

重慶市の都市計画は、壮大なもので、現在値の2倍を目標に設置していることも珍しくなく、目標に向かってひた走るパッションを感じ、次に、重慶を訪れる際は、今よりもさらに発展していると感じさせるものであった。

また、重慶の華びやかさが、市政府の策定した計画に基づき、照明やビルといった計画に基づいた建築物や設備に反映されていることが見受けられた。



(4) 重慶動物園

日本から居なくなったパンダと本場の中国で出会う事ができた。

パンダを撮りやすいフォトスポットは人が集中しており、撮影は容易ではなかったが、パンダの飼育場所が三か所あるため、いずれかの飼育場所は空いており、パンダを見る事ができた。

茨城県知事が日立市のかみね動物園にパンダを誘致したいという話を聞いたことがあり、中国が対日関係を改善したいという思惑があれば、パンダの来日が実現するかもしれないと思った。



(5) 在重慶日本国総領事館

解放碑近くの72階建てのビル（重慶世界金融センター）に入っている内陸地域における日本唯一の公的機関である。

高田総領事・横山副領事などにお会いし、重慶の実情についてご教授いただいた。重慶滞在中に喧嘩している人を見たことがなく、この規模の都市で喧嘩する人がいないというのは不思議だと思い、聞いたところ、重慶市民は、温厚で温かい心を持っているから、喧嘩をすることがないのかもしれないとのことだった。

(6) 重慶大爆撃「六・五」隧道惨案史実展示館

日本軍による重慶爆撃の被害者を追悼するための施設で、当時使われていた防空壕を改修し、臨場感のある展示内容となっていた。

今まで、戦争関連の施設は、ひめゆりの塔しか行ったことがなかったので、中国側

から見た日本軍というものを知ることができた。

日本に帰ってから知ったが、10元で献花できるそうなので、知っていたら献花したかった。

(7) 李子壠駅

駅がビルの中にあり、モノレールがビルに吸い込まれている様子が見られる。モノレールの振動が、ビルの構造に影響を与えるように見えるが、線路とビルがそれぞれ独立した構造となっており、相互に影響することはないそうだ。



(8) 四川外語大学附属中学校（中学生）

中国の学生の学習環境は、大学に入学するまで世界一過酷だと聞いたことがあり、そんな学生に実情を聞くことができた。中国の中学生は、寮から通ったり、家から通ったりと人それぞれである点は日本と同じであるが、授業は、8時から20時30分まで詰まっており、英才教育が施されている。

中国の小学4年生が習う範囲と日本の中学2年生が習う範囲が同じと聞き、学習時間の差がそのくらいあるという事が伺い知れた。

中学生のパフォーマンスでは、日本アニメのライセンス配信をしているテンセントビデオを使って、『千と千尋の神隠し』や『SPY×FAMILY』の日本語吹替えを披露してもらった。最初は、そのままアニメを流しているのかと思ったほど完成度が高く驚いた。

パフォーマンス終了後に先生と話す機会があったので、どのくらい練習したか聞いたが、「授業が始まってからの1週間で練習した。その他に、個人で夏休みに練習しているかもしれない」と伺い、中国人のインプット力の高さには叶わないと感じた。

食堂での昼食時に、同席した学生に、どうしてそんなに日本語がうまいのか聞いたところ、「お母さんが日本語の先生で、将来は日本で外科医をやる」と自信を持って答えていた。明確な夢が原動力となっていると感じた。



(9) 磁器口

洪崖洞が観光スポットとしての地位を確立するまでは、重慶一の観光スポットで、嘉陵江の港町として明清時代から栄えている。

伝統的な街並みやお面を次々と変えていく『変面』が楽しめる茶館がある。お面と衣装（マント）が関係あるように見えたが、高速で切り替わっていたため、はっきりと確認することができなかった。

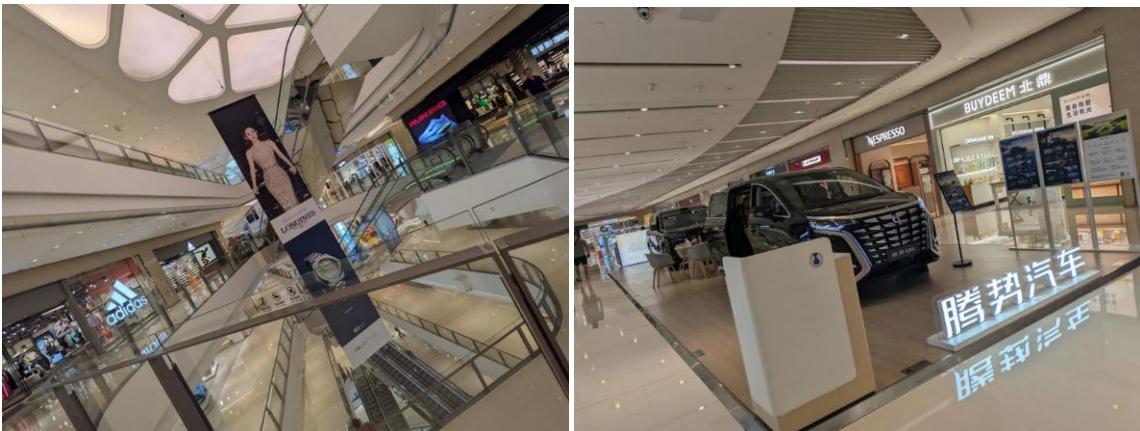
磁器口記憶博物館では、国内で白酒を飲む際に出てくる瓶が飾られており、清代のものが今も伝わっているという中国の伝統を感じた。



(10) 重慶万象城（ショッピングモール）

後述する解放碑のスーパーが、現地の方向けのリーズナブルな価格帯だとすると、こちらは高級スーパーであり、国外へ輸出しているブランドも多く、日本で購入するときと価格差がなかった。

中国では、買い物ついでに車を買う事が一般的なようで、モール内にテンセントやシャオミのEV車が展示されており、商談をしている様子も伺えた。



(11) 重慶工商大学（大学生）

私が重慶に訪問するに当たって参考にしたブログには、人気アイドル『肖戦』の出身校として紹介されている。

校内は、街のようにお店や公園などが点在しており、学生は車やバスで移動していた。バスは、ゴルフカートのように解放状態となっていて、一番後ろの席は、足を投げ出して、後続車両と向き合うに座ることができ、「アトラクションに見える。是非乗りたい。」という団員がいた。

大学生のパフォーマンスでは、サカナクションの『ミュージック』を披露してもらい、日本の音楽は中国でも楽しめていることが伺い知れた。

その後の雑談では、お互いに相手の国の言葉を話せなかったため、トリリンガルやクワドリンガルの学生と英語で会話をし、大学事情を教えてもらった。

中国の大学生も、大学受験が終わったら勉強がひと段落するので、そこで初めて遊び始めるが、日本と違い、ゲームセンターやカラオケはないので、友達とショッピングなどをして楽しむとのことだった。訪問団の大学生が、日本ではラウンドワンで朝まで遊ぶと答えた際に、信じられないと驚いていたのが印象的だった。



2 その他観光地（行程外で個人的に訪問した場所）

(1) 十八梯

古風で写真映えする観光スポットである。写真撮影の営業をしている人が沢山おり、利用しているシーンに遭遇したが、写真映えが凄かった。

レトロとモダンが混ざった街並みが特徴的だった。



(2) 洪崖洞

重慶1の観光スポットで、「重慶 観光」とネットで検索すると必ずヒットする超人気スポットである。私が訪問したときは5時前だったため、清掃の方以外には、人通りがなく洪崖洞を独り占めすることができた。

連休の夜は人が歩けなくなるくらい密集してしまうため、写真を撮る若者のために、車道を通行止めにして歩行者天国にすることもあるそうだ。

洪崖洞の最も驚くべきところは、2006年に現在の建築物ができて、2016年には経営破綻の恐れがあったが、建築物に電飾を入れたところ、SNSを通じて拡散され、今のような一大観光スポットとなった点である。

このような観光施策には日本も学ぶところが多いと思ったが、三峡ダムから供給される豊富な電力など、環境が異なるため、単純に真似ることは難しい。



(3) 解放碑

『重百超市』『薈』といったスーパー、『和平薬房』という薬局、『万客来衣料品』というファッショナブルモール、『停・S P A』というマッサージ店を利用した。

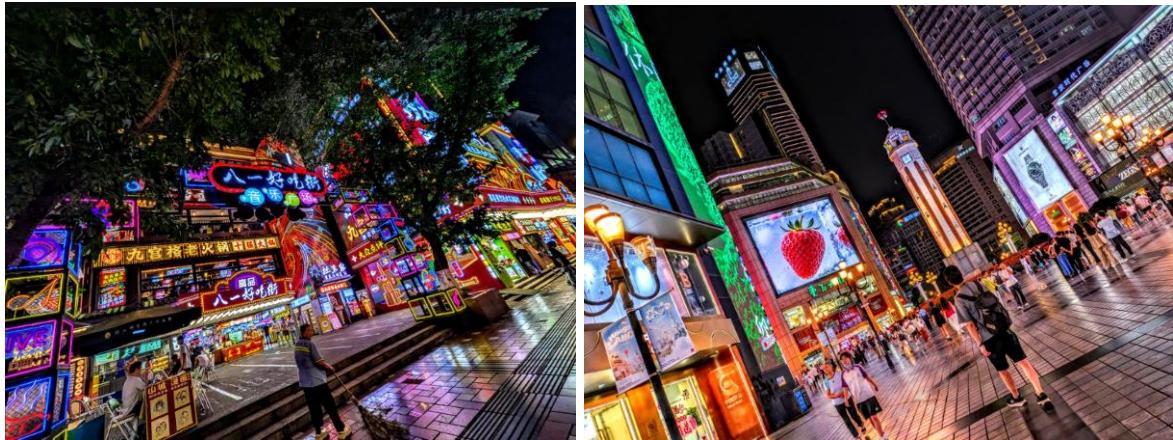
スーパーは、入口だけ1階で中は地下にある半地下構造となっていた。現地の方が利用するスーパーだけあり、同じ商品であっても、街中で見かけるコンビニよりも2～3割安い価格設定の商品が多かった。

薬局では、漢方を見て、『緑油精』という関節痛から虫刺されまでなんでも使えるメ

ソール系の万能オイルを購入した。

ファッショナブルモールは、中国オリジナルキャラクターの服やストリート系の服、パンダのタオルなど色々なものがあった。2元（40円位）のタオルなどは、価格相応で縫製の甘いものもあったが、50元（1,000円位）のトレーナーは、着心地も縫製もユニークロのものと遜色がない様子だった。

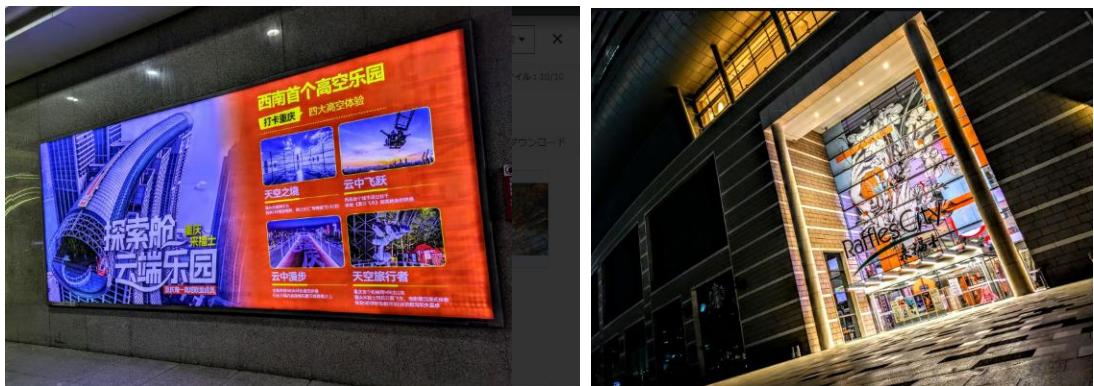
マッサージ店は、重慶タイムズスクエアの20階に入っており、10人で全身マッサージを受けるという事で120元/人（2,400円位）に値引きしてくれた。



(4) 朝天門広場

来福士がある場所で、スカイウォーク（命綱を付けて入る屋上）から見る重慶市内の夜景は絶景と聞いていたため、是非見てみたいと思っていた。

しかし、23時に訪問したため、すでに終業しており、中に入ることはできなかった。さらに、朝天門を一目見ようと近づいたが、工事中で近づくことはできなかった。



(5) 長江索道（ロープウェイ）

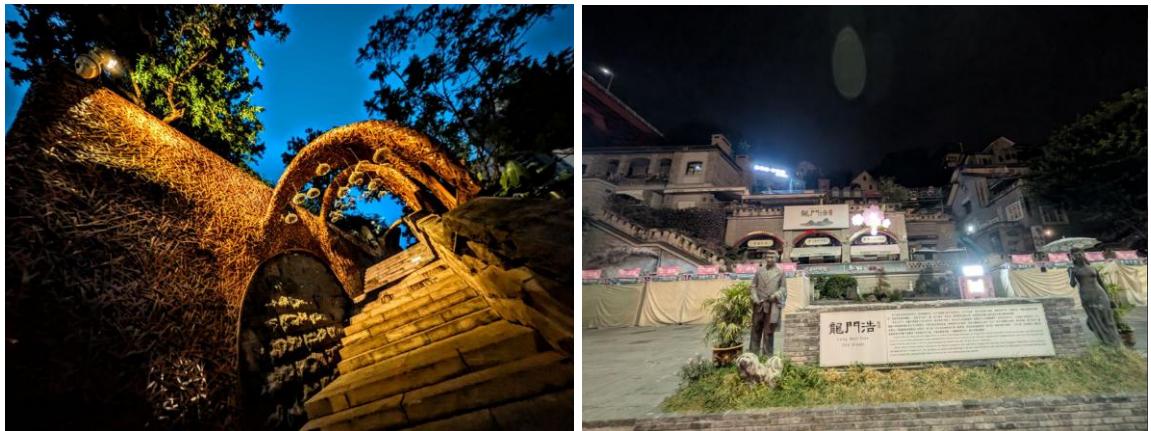
水戸でもロープウェイを作ったらしいという意見を知っていたので、観光ロープウェイとして成功している重慶のロープウェイを見学した。

重慶では、長江に橋が架かりモノレールとバスが交通手段になるまでは、ロープウェイが通勤手段として利用されており、観光地として注目されてきた現在は人気の観光スポットとして、乗車するために1時間以上並ぶことも珍しくないそうだ。その最大の特徴は、川を渡る際に、遮るものがない夜景を堪能できる点にあると感じた。



(6) 龍門浩老街

2体のくまモンにそっくりな像が出迎えてくれる古都街で、複数の大使館施設が一時存在していた名残が今も残っている。無形文化遺産の竹編みトンネルは、光と影が交差して、スポットライトのように、照らしていた。



(7) 人民大礼堂

重慶のシンボルとなる建築物で、市民の憩いの場所となっていた。重慶に来てから初めて太極拳を練習している方を見かけ、足運びの見取り稽古を行った。

地元の人にとっては、向かいにある三峡博物館と併せて、重慶の歴史を見学できるランドマークとなっている。



(8) 重慶北駅

南広場と北広場で別の駅となっており、駅の反対側に出るために電車を乗る必要があるとは思いもよらなかったが、駅員に優しく行き方を教えてもらえた。南広場から北広場に移動するのに思いがけず時間をかけすぎてしまい、北広場駅構内を見学する時間が足りなくなってしまったが、滞在した10分だけでも、そのスケールの大きさに衝撃を受けた。



3 都市環境

(1) 街並み

「魔幻8D都市」と言われるほど、立体的な都市構造となっている。

山肌に沿って街が作られているため、基礎の位置によって、各建物の1階が異なり、建物を出て、次の建物に移動した際に、それぞれの階が別々であることが珍しくなかった。

中心市街地活化を担当する職員として重慶を見たときに、水戸が重慶のような魅力的な市街地となるためには、ただお店があれば良いのではなく、魅力的なお店が無ければならないと気づかされた。



(2) 交通

車（タクシー、バス、自家用車、バイク）、モノレール、ロープウェイ、地下鉄、船舶が利用されており、坂が多いため自転車を利用している人はいなかった。船舶以外は全て乗ることができたが、日本の交通機関との違いは感じなかった。モノレールに関しては、車両ごとに扉がなく、先頭から最後尾まで見通すことができた。

駅の改札は、カードタッチのタイミングがシビアで、効率的に多くの人を通すのに

は最適だが、日本の感覚で通ろうとするとタイミングがずれて、引っかかってしまうと感じた。



(3) コンビニ

早朝や深夜にしまっている店舗が多い。中国固有のチェーン店や日本企業のチェーン店があったが、商品ラインナップは似通っており、飲料・お菓子（つまみ）などが販売されていた。

(4) カフェ

中国国内だけ出店している店舗や日本にも進出している店舗があった。

ジャスミンミルクティーが、若者を中心に人気で、朝注文して夕方取りに行くことも珍しくないほど混んでいるお店もあるとのことだった。

訪問団の女性にも霸王茶姫（中国のカフェ）が人気で、行った店舗では、常に受取り待ちで10人ほどの行列になるほど混雑していた。

水戸の町中にも中国のカフェがあると、市街地が活性化するかもしれない感じた。



(5) 自動販売機

冷蔵ショーケースにモニター付決済端末が付いており、現金決済は対応していなかった。ニュースで見たことのある顔決済は、中国の銀行口座と電話番号が必要なため、体験することができなかった。

中国の技術を見て、自分たちにとって不要な部分（自動販売機についてはセキュリティコスト）を徹底的に削り、採算分岐点を低くすることで、次々と新たな事業に挑

戦できていると感じた。



(6) ホテル

今回、宿泊させていただいたサマセットは、シンガポール資本のホテルで、日本で宿泊すると桁が一つ上がるような高級感ある内装と広々とした空間が特徴的だった。

ホテル内にはジムとプールがあり、時間があったのでプールを使ったが、軟水と硬水の違いか、日本のジムのプールより水の抵抗があり、推進力が強く感じた。水深は、1.4~1.8mの浅深混合プールで、天井がガラス張のため、背泳ぎをすると、ビルとビルの間を泳いでいるような心地になった。

食事はバイキング方式で、現地の食事や西洋料理など様々な料理があり、私が特に美味しいと感じたのは、重慶の特産品であるオレンジで、果物本来の甘味がしっかりとしていて、毎食5個分位たべてしまった。他にも、自分で味付けを変えられる重慶小麺など美味しいものが揃っていた。



重慶を訪問する前は、治安に対する漠然とした不安があったが、行程中は、私服・制服警官が周りをガードしてくれており、不安を覚えることはなかった。また、行程外で、早朝・深夜に外出していた際も治安が良くトラブルを見ることが全くななく、新宿の歌舞伎町のほうが治安が悪い。

日本から見た中国といえば、アステラス製薬社員が拘束されたことが有名であるように、どんな事が起こるか分からぬといいうイメージを持っていたが、私のような一般人には縁のない話で、とても治安が良くて、過ごしやすい観光地だと感じた。

次に重慶に行く際は、世界遺産である「中国南方カルスト」を構成している「天坑三

橋」、「龍水峽地縫」などのスケールの大きい自然を体験できる場所やショッピングパークのフロアが植物園になっている「沐光森林」なども訪れたい。



重慶を訪問して感じたこと

高橋 美沙希

私が重慶を実際に訪問して最も強く感じたのは、都市計画の先進性です。総合政策、経営学を専攻する者として中国の先進的な都市開発や成長に深く関心を持っていましたが、実際に現地を訪問したことでの成長スピードに圧倒されました。中でも、観光客の誘致にとどまらず、地域住民の生活基盤にまで目を向け、数十年先を見据えた計画が緻密に練られている点に驚かされました。現在の人口や面積から目標とする数値までの計画が大きく掲げられており、周囲の街並みの圧倒的な成長速度から、漠然とした非現実的な目標ではなく、近い将来達成が見込まれる現実的な数値が計算されているのではないかと興味深く感じました。重慶は「山城」と呼ばれるように山や丘にまで都市が広がり、その高低差が独特の景観を生み出しています。古い街並みと現代的な高層ビル群が共存する姿は、單なる歴史的背景の保存にとどまらず、都市そのものが「時間の層」を重ねているような趣を感じさせました。



都市計画展示館では、1920年代の重慶と現在の都市を鳥瞰図で比較する映像が印象的でした。そこには、急激な人口増加に対応するために林立するマンションや高層ビルが映し出され、都市がいかに柔軟に変化し続けてきたかが示されていました。重慶は長江と嘉陵江の合流地点に位置し、豊かな自然環境に恵まれています。さらに注目すべきは交通網の発展です。日本と比較しても格段に立体的で、一本の橋に車道とモノレールを重層的に配置し、周囲にはケーブルカーを走らせるなど、山と川に囲まれた複雑な地形を克服する工夫が随所に見られました。

これにより、観光客だけでなく市民の日常生活も快適に支えられていました。

観光的な魅力として特筆すべきは、夜間のライトアップです。重慶は盆地特有の湿潤な気候のため、昼間は高層ビル群が霞んで見えることが多いのですが、夜になると都市全体が光に包まれ、「魔幻都市」と称される幻想的な姿を現します。これは都市政策として夜景演出に積極的に取り組んだ成果です。立体的に重なり合う都市構造に光をまとわせることで、平面的な都市では得られない圧倒的な迫力と光の重層感が生まれます。特に長江沿いのライトアップは、水面に反射する光と相まって、現実と幻想の境界を曖昧にするほどの



魅力を放っており、私は強く心を動かされました。

今回、訪問団の一員として重慶を訪問し、重慶市政府外事弁公室の全面的な支援をはじめ、滞在期間中に本当に多くの方々にお世話になりました。初めて公的な訪問を経験したこともあり、不安と緊張でいっぱいでしたが、温かく迎えていただいたことで安心して心地よく過ごすことができました。普段関わることのない国境を越えた同年代の学生とも交流し、新たに自己成長を見直すきっかけや目標を得ることができました。次回、重慶を訪れる機会があった際には、成長した自分で戻ってこられるように、また大学での勉学につなげられるように努めて

いきたいです。長江の川の流れのように絶え間なく、これからも両市の関係が続きますよう心よりお祈り申し上げます。

発展と交流に学ぶ重慶市訪問報告

富岡 淳

今回の重慶市への訪問は、私にとって約20年ぶりの再訪となりましたが、その変貌ぶりは驚くべきものでした。「山城」と言われる重慶市独特の地形に高層ビル群が林立し、地下鉄網をはじめとする都市インフラが整備され、かつての印象とはまったく異なる現代的で成熟した都市の姿に接しました。

特に強く感銘を受けたのは、街全体に浸透しているIT化の進展です。キャッシュレス決済が徹底して普及しており、大規模な商業施設はもとより、小規模な商店に至るまでアプリを活用した支払いが当たり前のように行われていました。また、公共交通機関はもとより、地形の不利を解消するためのまちなかエレベーターの利用においてもスマートフォン一つで完結する仕組みが整っており、乗車や決済が非常にスムーズであることに驚かされました。こうした利便性の高さは、市民の日常生活の効率性と快適性を大きく向上させているのみならず、観光客にとっても安心で過ごしやすい環境を提供しています。日本でもキャッシュレス化は進められていますが、都市全体としてここまで浸透している姿を目の当たりにし、今後の社会の在り方を考える上で大きな刺激となりました。

また、清潔な街並みや秩序ある交通の様子など、衛生面・治安面における良好な環境も強く印象に残りました。市民一人ひとりのマナーや公共心が都市全体の快適さを支えていることを実感いたしました。

そして、忘がたいのは夜景の美しさです。長江と嘉陵江が交わる地点から眺める光り輝くビル群と水面に映る灯りの調和は壮観であり、観光資源としても極めて高い価値を持つと感じました。その背景には、三峡ダムによる安定的な電力供給によるものだと聞きました。大規模なライトアップは単なる景観美にとどまらず、観光施策として都市の魅力を国内外に発信する効果を高めており、エネルギー政策と観光振興が見事に結びついた事例を学ぶことができました。

現地の学生との交流も貴重な体験となりました。日本のアニメや音楽に関心を寄せる姿



2004年の重慶市



嘉陵江北側からの夜景

は印象的であり、報道などから抱く先入観とは異なり、自然体で日本文化を楽しみ受け入れていることが印象的でした。さらに、会話を交わしながら中国の伝統文化である切り絵や香包づくりを体験し、互いに作品を見せ合いながら笑顔で感想を伝え合う場面もありました。その過程で、言語や国境を越えた温かな交流を実感するとともに、両国の若者が文化を通じて理解を深め、友好を築いていく大きな可能性を強く感じました。

今回の訪問を通じ、重慶市の著しい発展とともに、国際交流の持つ意義を改めて実感いたしました。都市基盤や生活環境の整備、IT化やエネルギー・観光施策の融合、そして文化や交流の広がりは、いずれも政策の成果や市民の努力によるものであり、その姿勢から学ぶ点は多いと感じます。そして、学生との交流を通じ、次世代を担う若者が互いの文化を尊重し合い、信頼を深めていくことこそが、真の国際理解と友好の礎になると感じました。

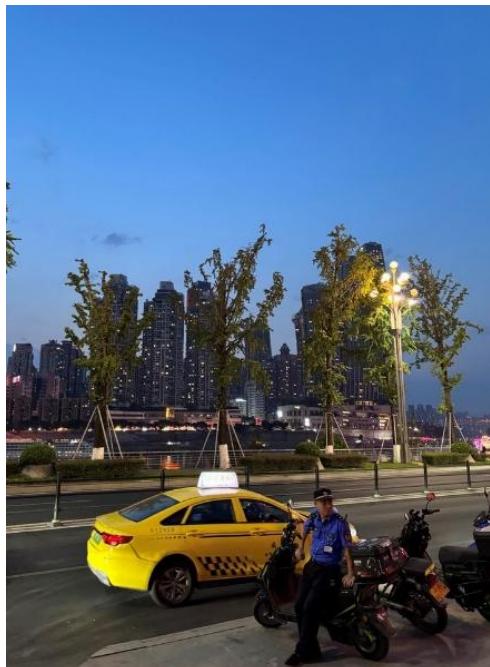
最後に、滞在期間中、重慶市外事弁公室の皆様には特別なご配慮をいただき、安全安心に滞在することができましたことに心から御礼申し上げます。そして、このような貴重な機会を与えてくださった水戸市国際交流協会をはじめ、多くの関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。今回得た学びを今後の業務や日常の中で生かしてまいりたいと存じます。

重慶市青少年交流訪問団に参加して

古河 千佳

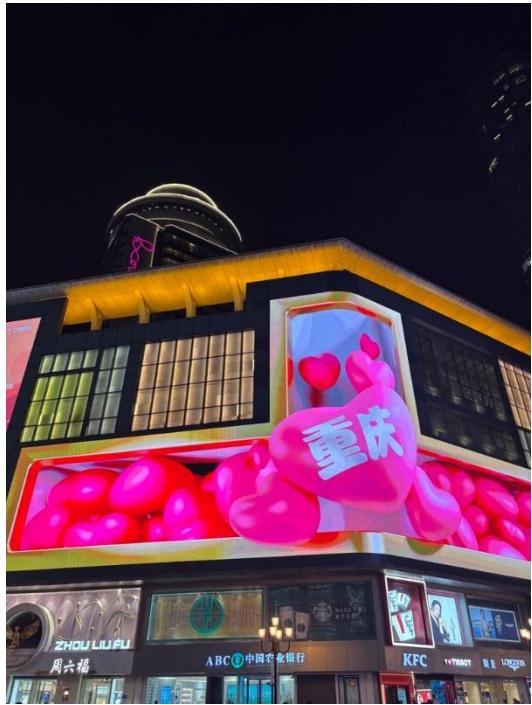
○重慶で感じたこと

今回、重慶市青少年交流訪問団の一員として訪問した重慶市は、山と川に囲まれた独特の地形が特徴的で、自然と都市が融合した美しい街でした。街の立体的な構造や近代的な高層ビルが立ち並ぶ川沿いの景色は、これまでに見たことのない景色で全てが新鮮でした。街中を散策してみると、昔ながらの市場や路地も多く残っており、伝統と現代が調和した文化的な雰囲気が印象に残っています。夜になると、屋台が活気づき、地元の人々が食事や交流を楽しむ姿が見られ、重慶の人々の食文化や生活を身近に感じることができました。現在も発展し続ける重慶ですが、地域のコミュニティや伝統を大切に残そうとする姿勢も感じられました。



訪問を通じて出会った重慶の人々は、非常に温かく親しみやすい方々ばかりで、日本人の私たちにも誠実に接してくれました。街中やお土産店、レストラン、公共の場においても、困っていることがあればすぐに手助けをしてくれたり、小さな親切を惜しみなく行う思いやりの心が非常に強いことを感じました。こうした重慶の人々の温かさが、重慶の活気を生み出しているのだと思いました。

ます。この訪問を通じて、単に都市や観光地を見るだけでなく、現地の「人」に触れることの大切さを強く感じました。



中でも特に印象に残っているのは、四川外国语大学附属中学校と重慶工商大学の学生たちとの交流です。四川外国语大学付属中学校では、中学生が「千と千尋の神隠し」の日本語吹替えとテーマ曲の合唱を披露してくださいました。その日本文化への親しみと一生懸命さにとても感動しました。また、交流会においては、中学生と切り絵体験をさせていただきました。皆さんのが日本語で積極的に会話を試みようとする姿勢に驚きました。重慶工商大学においては、夕食を食べながら学生たちと交流しました。その際、学生たちは、将来の夢や好きな日本文化などを語ってくださいり、聰明で学びに積極的な姿が印象に残っています。学生たちは、私たちに対しても強い興味を持って接してくださいり、

私は、国籍を超えた交流の楽しさを実感しました。日本のアニメグッズをお土産として渡した際、大変喜んでもらえたことが私も嬉しく感じました。

その他にも、通訳ガイドとして行程に同行してくださった四川外国语大学の鄭さんは、日本語が非常に上手で明るくかわいらしい方でした。食事を共にした際には、学業の大変さや自国のトレンドについて、好きな実家のごはんについてなど、日本人の友人と話をしているかのように楽しい時間を過ごすことができました。鄭さん自身も日本に強い関心があり、日本に来た際、家系ラーメンを食べ、すごくおいしいと感じたことや、日本のアーティストの曲を聴いていることなど、たくさんの日本への思いを聞かせてくださいました。

○結びに

今回の重慶訪問を通じて、私はこれまで漠然と抱いていた「中国」という国のイメージが大きく変わりました。地図やニュースで見るだけでは分からなかつた、そこに暮らす人々の温かさや豊かな文化、日常生活を肌で感じることができたことは、非常に貴重な経験でした。言葉や文化の壁を越えて、人と人が心を通わせることができ、国と国との末永い友好関係につながっていくのだと改めて実感しました。これからも今回の経験を心に留め、国際理解を大切にしていきたいと思います。

また、このような貴重な機会を与えてくださった、関係者の方々に心より感謝申し上げます。



重慶の人々の温かさや相互理解の大切さ

松川 のぞみ

中国の三大ストーブと言われる重慶市は夏に40度を超える盆地であり、気温だけでなく、名物の火鍋や、重慶で出会う人々が非常に親切で温かく、重慶への訪問を通して、土地・食べ物・人において温かい地域であると実感しました。

重慶市は山城と呼ばれるように傾斜が多く、高層ビルの多さや、四方八方に張り巡らされた複雑な交通網の整備に驚きました。人々は車やバイク、バスやモノレールなどで移動しており、自転車を全く見かけなかったことは坂道が多い土地ならではの風景であり新鮮でした。



滞在した期間は外に少し出ただけで汗ばむほど気温や湿度が高く感じましたが、火鍋を食べて汗をかき、すっきりする良さを実感しました。また、中国ではキャッシュレス決済が主流となっており、QR決済のみに対応した自動販売機からもIT化が日本より進んでいることを感じました。



初日から最終日まで同行してくださった重慶市の大学院生や大学生、外事弁公室の方々や運転手、カフェの店員さんや四川外国语大学附属中学校、重慶工商大学の学生と交流し、人々の温かさを実感しました。特に同行してくださった皆様は、朝から夜間まで長時間にわたるスケジュールの中においても、

笑顔で中国文化の紹介や沢山の気遣いをしてくださり大変感動しました。四川外国语大学附属中学校の学生は英語よりも日本語を多く授業で学んでおり、語学教育の差に驚きました。交流した学生からは日本旅行の話や好きなアニメの話を聞き、日本が好きなことが分かり嬉しかったです。重慶工商大学では英語専攻の大学生や大学院生と交流し、英語の流暢さに感嘆しましたが、学生から中国の人口が多いために就職先が少ないと聞き、競争社会の厳しさを感じました。また、日本のJPOPの曲が好きと聞き嬉しかったですが、反対に私は中国の音楽や文化について提供できる話題が少なく残念に思い、中国文化に触れる機会を増やしたいと思いました。

重慶訪問を通して、国際交流において重要なことは相互理解であると実感し、中国の文

化に対する興味が増しました。また、現地で重慶大爆撃に関する日本と中国の歴史を学ぶことも大切だと思いました。団員の方々からも中国について学ぶことができ、大変有意義な旅となりました。水戸市国際交流協会の方々をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



ありがとう、重慶

村田 夢果

私は、人口規模や経済発展といった点で「世界で唯一無二」ともいえる中国という国に、以前から漠然とした興味を抱いていた。そんな折、今回の研修の募集を知り、中国をより深く理解したいという思いから応募した。

1日目・2日目は、目で見て初めて知る「今の重慶」の姿に心が躍った。長江沿いにそびえる高層ビル群と、どこか懐かしさを感じさせる生活感のある街並みが同じ視界に広がり、不思議な感覚を覚えた。夢中で過ごすうちに2日あっという間に過ぎ、3日目には在重慶日本国総領事館を訪問した。

そこで伺った総領事の言葉が心に残っている。

「日中関係の柱となるのはソフトパワーである」

複雑な歴史的背景を持つ両国の政治関係を安定させるのは容易ではない。だからこそ、民間や個人同士の交流といった「ソフトパワー」が欠かせないのだ、という趣旨であった。その時は正直、十分に理解できなかった。しかし翌日以降の経験を通して、この言葉の意味を実感することになる。それは、人との交流を通してであった。

四川外国语大学附属中学校や重慶工商大学で出会った学生たちは、来る者拒まず、去る者「惜しむ」という温かい姿勢で私たちを迎えてくれた。彼らが日本に興味を持ち、知ろうとしてくれることが何より嬉しかった。戦争という変えられない過去がある以上、反日的な人も少なくないだろうと覚悟していたが、その予想は見事に裏切られた。

中学校では、グループに分かれて切り絵を楽しんだ。勉強中の日本語を駆使して一生懸命に話しかけてくれたり、中学生らしい可愛らしい話で笑わせてくれたりしたこと、さらには「これからも微信で連絡を取り合おう」と伝えてくれた真っ直ぐな瞳を、私は忘れないだろ





う。大学でも多くの学生が積極的に話しかけてくれた。日本語で歓迎してくれた3人組のお姉さん方、日本のアニメやバンドを楽しそうに語ってくれたお兄さん方、その温かさは本当に印象的だった。特に、専攻がフランス語であり会話できなかったにもかかわらず、別れ際に自分の髪飾りを差し出してくれた方の優しさには、言葉を失うほど感激した。

言葉の壁があったにもかかわらず、同じ人間として心が通じ合えたような感覚を強く覚えた。

また、観光地で通訳をしてくれたyuaさん、インターーンとして私たちに同行してくれた袁さんとも多くの時間を共に過ごした。日本や中国の習慣・学校生活といった日本人と中国人としての話ができた事はもちろん、国籍を超えてくだらない話で笑い合えたことが、何よりも嬉しかった。

今回の研修を通じて私は、「ソフトパワー」こそ身近で確かな平和の種であると感じた。国と国との関係を「A国はB国と仲が悪い」「C国は恐ろしい国だ」と一面的に捉えるのではなく、実際に人と触れ合うことでこそ理解が深まるのだと思う。悪い印象や否定的な意見を持つことは自由である。しかし、それでは分かり合えることもなく、平和の種をまくこともできない。平和の種をまくとは、すなわち偏見を捨てることだ。種をまかなければ花が咲かないように、偏見を捨てなければ平和は訪れないのだ。だからこそ、人との交流は偏見を取り除く大切なきっかけであり、平和への確実な一歩になると思った。

最後に、この研修を実現してくださった全ての方々に、心より感謝を申し上げたい。新たな発見と大きな夢を得られたのは、皆様が計り知れない労力を費やし、ご尽力くださったおかげである。その努力に恥じない人間へと成長していきたい。

重慶訪問をしてみて思ったこと

吉川 千絵

今回の重慶訪問は、私にとって初めての経験が多いものとなった。

まず、重慶のような起伏に富んだ都市を訪れるのは初めてで、今まで見たことのない景色が広がっていた。上下にどこまでも続く高層ビルや、多層の建物が織りなす夜景、長江と嘉陵江に囲まれた一帯は、これまで訪れた上海や武漢、広州とはまったく異なる景色を作り出しており、初日から圧倒された。

また、今回の訪問で私は初めて中国で WeChat Pay や滴滴を利用した。これまですべて現金で支払っていたが、WeChat Pay の普及率の高さや、アプリひとつで飲食の注文からタクシーの手配まで完結できる利便性に、中国のネット社会の発展を実感した。一方で、海外カードを紐づけた場合には支払いができない店舗があることや、WeChat 内のミニアプリは携帯番号認証が必要な場合があること、また言語設定に関わらずすべて中国語表記になることなども知り、中国語ができない人や中国国内の身分証を持たない外国人にとっては少し不便な場面があることを実感した。これらの体験から、日本人が中国旅行にハードルを感じる理由の一端を理解できた。

今回最も印象に残ったのは、在重慶日本国総領事館で伺った高田さんのお話である。中国は縦にも横にも多様性が非常に大きく、今後それが文化や習慣、経済にどのような影響を与えていくのか、強く興味を抱いた。また、総領事館では政治ではなく民間に働きかけることを重視し、ソフト・パワーを用いて「本物の日本」を中国へ発信しているという点が印象的だった。「百聞は一見に如かず」という言葉が示す通り、日中友好や交流促進には、実際に互いの姿を見て理解することが不可欠である。私自身、今回の訪問で初めて実際の中国を目にした他の訪問団員を見て、体験することの重要性を強く感じた。また、私たち訪問団や留学・旅行で中国を訪れた人々が、実際の経験を発信することで、日本側の中国に対する印象を最新のものへと更新できると考える。このことは中国に限らず、他国との関係でも同様であり、実際に現地を訪れ、自分の目で見ることが互いの理解と友好関係の発展につながると思った。

さらに、現地で学生たちと交流できたことはとても貴重で、大切な思い出になった。私はこれまで何度も中国を訪れてきたが、同年代との交流は多くなく、唯一訪れた学校も地方のもので、会話できたのも 2、3 人と少なかった。そのため、今回、四川外国语大学附属中学校や重慶工商大学でクラスを挙げて歓迎してもらう経験は初めてだった。生徒たちのフレンドリーさ



や優しさ、日本語の上手さに驚きつつ、中国の剪紙や香包づくりなどを通して文化に触れられたことは本当に良い思い出になった。

特に、外国语学校の生徒たちは日本語を学び始めて2~3年しか経っていないにもかかわらず、自然で流暢な発音で話しており、その教育水準の高さに驚かされた。また、学校の進学制度や大学生の話を通して、中国の大学受験の厳しさや学歴の重要性を実感し、高田さんがお話しされていた中国の教育問題や就職問題についても、実感を伴って理解することができた。

今回の重慶訪問では、これまでの中国旅行では得られなかつた数多くの経験をすることができた。

中国の発展の速さに改めて驚かされるとともに、今まで知らなかつた一面に触れたことで、中国という国をこれまでとは異なる視点から考えるきっかけとなった。急速な変化を続ける国だからこそ、これから行く末に興味と同時に少しの不安も抱いたが、それ以上に、普通の旅行ではできない貴重な体験を重ねられたことに感謝している。

最後に、私たちを歓迎し、手厚くサポートしてくださった重慶市外事弁公室の職員の方々、説明や通訳をしてくださった方々、交流してくださった学生たち、そしてこの訪問団を計画してくださった重慶市と水戸市の職員の方々に、心より感謝申し上げたい。





訪問前の中国の印象は？ 重慶について知っていたことは？



悠久の歴史があり、世界遺産を始めとして多くの史跡がある。学問や文化、芸術など様々な影響を受けている。料理美味しい。国家としての力が強い。一方で、過去に訪れた印象として、原付バイクがたくさん走って空気が汚い。衛生的にはあまりよくない。雑多。空港でも薄暗く電力控えめ。



正直なところ日本をよく思っていない人が多いのだろう、また、経済成長は著しいものの、街並みの綺麗さや飲食店の充実さはまだ発展途上と思っていました。



中国は閉鎖的で中華料理が辛そうなイメージがありました。



中国といえば、ニュースで見る暴動やデモのイメージがあった。訪問団に参加するまで、恐竜のイメージしかなかった。



近年の発展が著しいが、貧富の差が大きい国。重慶については、中国近現代史の重要な舞台である、という程度の知識でした。



重慶市は内陸のほうにあり行ったことがなかったため、どれほど発展しているか想像がつかなかった。立体都市だし道路ごちゃごちゃしてそう、みんな運転荒かつたら怖いな、食べ物辛そう、暑そうと思っていた。



訪問前の中国の印象は、歴史や文化が豊富な国、本場の中華料理が美味しい。ネガティブなことになってしまいますが、政治体制が怖い、大気汚染のイメージがありました。重慶について知っていたことは高低差の激しい地形で建物が密集している映像をSNSで見たことがありました。



内向き志向が強く、独自の枠組みで成り立っている国。人口が多い。





訪問してから中国(重慶)の印象は変わった?



想像以上に都会で発展していたことと、優しい人が沢山いました。

日本人だからといって嫌な思いをすることは一度もなかった。街並みがとても綺麗で、東京の何倍も明るく、支払いも自動車も電子(電気)化されていた。



何度か行ったことのある中国でしたが、今回の訪問は私の中国に対する印象を、良い方向に、大きく変えてくれました。中間層のボリュームが広がり、私の想像より豊かな暮らしをしていると感じました。



街が綺麗で驚いた。深夜も早朝もゴミを回収して回っている人達がいた。これに慣れていると、他の国に行ったときも目立つ場所に置いておけば、後で回収されると思ってしまうかもと思った。



中国のCHAGEEや去茶山などのお茶が香りも味も良かったのが印象的です。ミルクティー系のを飲んでみてもちゃんとお茶の香りも感じ、お茶の程よい主張があるところ、甘さを選べるところが好きです。一方、飲むとすぐにトイレに行きたくなってしまうので中国茶のパワーを感じました。日本ではカフェで紅茶を頼んでも、スタバやゴンチャでお茶系の飲み物を買ってもトイレに行きたいとは感じないのに…

中国人は歴史的背景から日本をよく思わないのでは、と思っていましたが、多くの人が非常に親切に接してくれたので、あたたかく優しい人々がたくさんいるんだな、と中国人に対する印象が大きく変わりました。



前回の訪問時も著しい発展を遂げているという印象だったが、今回の訪問では全く別の都市と思うくらい成熟した都市だと感じた。ホームレスや物乞いなどを見かけることもなく、治安も良く、公衆衛生も素晴らしい。観光都市としてもとても魅力的。

以前は、中国に対して「不思議な国だ」という漠然とした印象を持っていたが、実際に訪れてみて、街の風景や人々の生活、社会の仕組みなど具体的に見聞きする体験を通して、よりはっきりとした理由とともに「やはり不思議な国だ」と感じるようになった。



中国の発展に改めて驚いた。内陸部に行くのは初めてだったが、上海などと同等の大都市であることを実感した。また、明らかに中国がどんどん綺麗に、快適になっていることに気づいた(タクシーが綺麗で芳香剤やタバコの匂いもしない、等)一方入国や出国時の検査がどんどん厳しく面倒になっていると感じた。

Q3

訪問で1番印象に残ったものは？



街中の歩道で、ダンスや卓球、トランプをしている人が普通にいることに驚きました。自由な感じ、とてもよかったです。



午前4時に街で見かけた麻雀店です。男女で徹麻して、そこそこ賑わっていました。



夜景が印象的でした。遠くから見た洪崖洞が特に幻想的でした。



日本にはないビルに映し出されるタイプのライトアップ



キヤツシュレスの浸透。

いつも食べきれないくらいの大量の料理。からの、王シェフ現るところ。



特に印象に残ったものは、

「去茶山」の雲南プーアル茶のラテです。滞在中にいくつか試した中でも、ダントツで美味しかったです。



経済的に豊かな人とそうでない人の差が非常に大きいこと。



私の中国語の発音だけでタクシーの運転手さんに日本から来たと当てられたこと。外国語学校の生徒たちの日本語が上手なところ（中学2、3年生と聞いて驚いた）。古い建物や街並みと近代的な高層ビルが混在していること。長江と嘉陵江の色が本当に違うこと。

資料編



友好交流都市重慶市との交流の経緯

(令和 7 年 10 月現在)

【交流のきっかけ】

水戸市と重慶市との交流は、1985(昭和 60)年 3 月に、孫平化中日友好協会副会長(当時)の水戸市への訪問がきっかけとなり始まった。訪問の折、孫平化氏は、水戸市役所敷地内で日中国交回復記念の植樹を行った。

また、同年 5 月には、つくば市にて開催中の科学技術博覧会視察のために来日中の中華全国総工会代表団が、また胡友華氏をはじめとする中国科学技術センター訪日団一行が水戸市を訪れている。

このような交流の中で重慶市との友好親善交流の話が進められ、水戸市の重慶市に対する友好的な考えが胡友華氏から重慶市長へ伝えられて、同年 6 月には、重慶市人民政府対外事務局副主任の辛玉氏から、佐川一信水戸市長(当時)に対して、友好親善交流の推進と訪中の誘いの書簡が届けられた。

翌年の 1986(昭和 61)5 月、佐川一信水戸市長(当時)を団長とする第 1 回水戸市中国行政視察友好訪中団が、北京市、重慶市、上海市を訪問した。北京市においては、中日友好協会会長の孫平化氏や北京市人民政府を表敬訪問して友好親善を深めるとともに、重慶市においては肖秧市長ほか多くの関係者と意見交換を行い、友好親善を深めた。一方、同年 10 月には、重慶市人民代表大会常務委員会副主任の白蘭芳氏を団長とする重慶市代表団が水戸市を訪れ、白蘭芳副主任が、水戸市議会議場にて挨拶を行った。

【全国緑化フェアの成功】

その後、両市の代表団が相互に訪問を重ねるなか、1991(平成 3)年になって、翌々年に開催予定の全国都市緑化フェアへ重慶自然博物館所蔵の恐竜化石を出展することについての要請のために、水戸市の代表団が重慶市を訪問した。続いて 1992(平成 4)年には出展に関する交渉のため、そして、1993(平成 5)年には恐竜化石の梱包を確認するため、それぞれ水戸市代表団が重慶市を訪問した。一方、この間、重慶市代表団も 1992(平成 4)年に 2 度水戸市を訪れ、1993(平成 5)年には、重慶自然博物館の副館長や学芸員、更には重慶市文化局長ほかが訪れている。こうして、重慶市人民政府や重慶自然博物館、そして中国国家文物局の全面的な協力のもとに、水戸市が出展した「恐竜館」が多くの入場者を集め、第 10 回全国都市緑化フェアの成功に大きく寄与することになった。

【活発な人的交流、そして提携への動き】

緑化フェアの成功を経て、1994(平成 6)年 1 月に、岡田広水戸市長(当時)を団長とする水戸市代表団が、恐竜展への化石出展の御礼と交流を深めるため、重慶市を訪問した。

その後、1995(平成 7)年から 1999(平成 11)年にかけて、両市の間で、相互に人的な交流が進められるなか、1999(平成 11)年 11 月に、重慶市人民代表大会常務委員会副主任の馮克熙氏を団長とする重慶市代表団が水戸市を訪問し、岡田広水戸市長(当時)との会談の中で、これまでの両市の交流の経緯を踏まえ、「西暦 2000 年」という節目の年に、友好関係を提携してはどうかとの話がなされた。

【「友好交流都市」の提携】

1999(平成 11)年 12 月に、水戸市日中友好協会から、「重慶市と友好都市締結を求める請願書」が市議会へ提出され、採択されるとともに、2000(平成 12)年 3 月の市議会定例会の本会議においては、重慶市との友好交流都市の提携についての議案が全会一致で可決される。

このような経緯を受けて、2000(平成 12)年 6 月に、岡田広水戸市長(当時)を団長とする重慶市友好交流都市調印使節団 71 名が重慶市を訪問し、友好交流都市提携合意書の調印が行われた。

【友好都市へ向けた交流】

友好交流都市を提携し、新しい関係を築いた両市は、友好都市の提携に向けて様々な交流を行っている。相互訪問はさらに活発なものとなり、2000(平成 12)年からこれまでに、水戸市からは 7 回の訪問団の派遣、重慶市からは 9 回の訪問団の来水があり、両市において交流を深めた。

相互訪問以外の事業として、2002(平成 14)年、水戸市は緑化フェア恐竜館跡地に「重慶広場」を整備し、現在、広場は市民の憩いの場となっている。また、「中国・重慶展と国際交流のつどい」を開催、多くの市民が参加し、重慶市への理解と関心を深めることとなった。そのほか、同年夏、北京において開催された日中国交正常化 30 周年記念日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に水戸市・重慶市合同チームが参加し、両市の中学生がスポーツを通じ交流を深めた。

2003(平成 15)年秋には、両市の小学生の絵画、書道作品を展示する「水戸・重慶友好交流都市児童書画展覧会」が水戸市国際交流センターで開催され、多くの水戸市民の目を楽しませた。

重慶市においては、2004(平成 16)年 5 月に、重慶市労働人民文化宮において「重慶市と広島市及び水戸市との友好交流展示会」が開催され、多くの重慶市民が水戸市の児童の書画作品や街の様子を伝える写真パネルなどを通して、水戸市について理解と関心を深めている。

2008(平成 20)年には、水戸市水道部職員が、水道事情の調査を目的として重慶市等を訪問、技術部門の交流の実現に向けて取り組んでいる。

2009(平成 21)年には、水戸市市制施行 120 周年を記念して、アナハイム市及び重慶市の関係者を迎える、これからの中日友好交流について考えるシンポジウムを水戸市国際交流センターにおいて開催し、重慶市側からもパネリストが参加している。シンポジウムでは、「市民主導の交流」をテーマとして、水戸市、アナハイム市、重慶市を代表するパネリストに加え、一般の市民も交えながら、活発な議論や意見交換がなされた。

2017(平成 29)年には、北京において開催された日中国交正常化 45 周年記念日中友好交流都市中学生卓球交歓大会に水戸市・重慶市合同チームが参加し、両市の中学生がスポーツを通じ交流を深めた。

2018(平成 30)年には、重慶で開催された「中国国際スマート産業博覧会 (Smart China Expo: SCE 2018)」における「中国・重慶国際友好都市市長円卓会議」に高橋靖水戸市長が招待され、「水戸市の ICT を活用した教育の推進」について発表した。

2019(平成 31)年には、前年の「SCE 2018」での高橋靖市長の発表内容を受けて、重慶市から教育視察団が来水し、市内の小中学校の教育現場などの視察を行った。

2019(令和元)年の水戸市市制施行 130 周年に際しては、重慶市より使節団が来水し、記念式典への参列及び水戸市国際交流センターの視察などを行った。

2020(令和 2)年には、新型コロナウイルスが世界的に流行する中、流行初期にマスク不足に陥った重慶市に、水戸市から医療用マスク 5 万枚が送られた。その後、水戸市内で医療物資が不足すると、重慶市より同年 6 月に医療用マスク、防護服、体温計などの物資が水戸市に送られた。

同年は、水戸市と重慶市の友好交流都市締結 20 周年にあたり、重慶市での 20 周年記念式典や相互の訪問団派遣、青少年交流、パネル展などが企画されたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、こうした一連の企画はやむなく中止となった。

2021(令和3)年には、友好交流都市提携20周年を記念し、水戸市においては重慶市の紹介展示、重慶市においては水戸市の紹介展示が行われた。

2024(令和6)年5月、重慶市において「国際友好都市協力大会(フォーラム)」が開催され、重慶市からの招待を受けて小田木健治副市長が訪問した。また7月には、重慶市において開催された「@重慶@世界『継承と革新、手を携えてともに前進』日本友好都市青少年交流活動」に広島市とともに招待され、水戸市から青少年交流訪問団を派遣した。2025(令和7)年8月、北京で開催された「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」に水戸市・重慶市合同チームが参加した。また9月には、重慶市からの招待を受け、水戸市から青少年交流訪問団を派遣した。10月には、提携25周年記念友好交流都市重慶市親善訪問及び中国文化・行政視察団を水戸市から重慶市に派遣した。友好交流都市25周年を迎える、両市の交流は活況を呈している。

日本国水戸市・中華人民共和国重慶市 友好交流都市提携合意書

日本国茨城県水戸市と中華人民共和国重慶市は、日中両国政府による共同声明の精神及び日中平和友好条約にのっとり、平和友好、平等互恵、相互信頼、長期安定の原則に基づき、両市民の永遠の友情及び両市の友好協力関係を更に発展させ、アジア及び世界の平和に貢献するため、両市の友好交流都市提携について下記のとおり合意した。

- 両市は、経済、文化、教育、スポーツをはじめ、各分野にわたって広範な交流を進め、併せて両市の民間交流活動を積極的に推進する。
- 両市は、これらの交流を基礎として、今後友好都市締結に向けて努力する。
- 両市は、それぞれの担当窓口を指定し、これらの窓口を通して具体的な交流項目を策定し、実施する。
- 本合意書は、同等の効力を有する日中両国語により作成し、水戸市議会及び重慶市人民代表大会常務委員会双方の承認をもって効力を発するものとし、水戸市と重慶市双方が各自1通を保持する。

2000年6月6日

日本国
水戸市長

岡田 広

水戸市議会議長
高橋丈夫

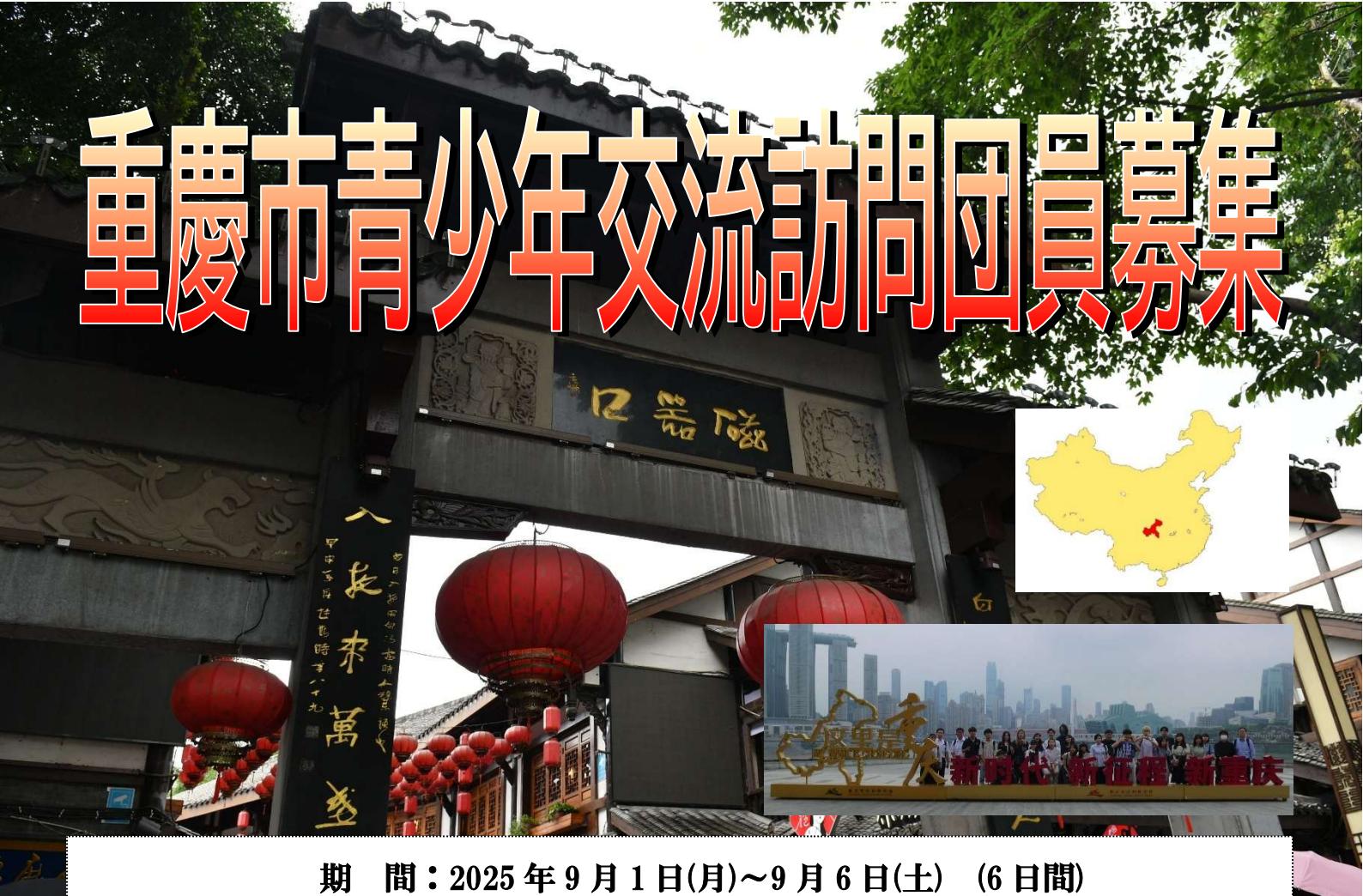
中華人民共和国
重慶市長

李毅

重慶市人民代表大会
常務委員会主任
付

李列

重慶市青少年交流訪問団募集



期 間：2025年9月1日(月)～9月6日(土) (6日間)

訪問先： 重慶市（中華人民共和国）

重慶市は、中華人民共和国の長江上流にある直轄市です。3,000万人以上の人団を有する中国最大の都市であり、西南部における経済の中心地です。

水戸市と重慶市は、2000年に友好交流都市の盟約を締結して以来、相互の訪問団派遣や青少年交流、市民間の交流を通じて、友好を深めてきました。

この度は、重慶市の招きにより、青少年交流訪問団を派遣します。現地では、市内施設等の見学や様々な体験を行うほか、学校等を訪問し、現地の青少年と交流します。

この機会にぜひ重慶市を訪れてみませんか？

募集人員：18人

対 象：高校生、大学生、社会人など (2025年4月1日現在15歳以上、40歳未満であること)

※詳しい応募資格については募集要項を参照

申込方法：募集要項に基づき、所定の参加申込書・必要書類を持参または郵送(必着)

※募集要項・参加申込書は、水戸市国際交流協会ホームページからもダウンロードできます。

<https://mitoic.or.jp/jp/>

受付期間：2025年6月11日(水)～6月26日(木)

主 催：中華人民共和国重慶市・水戸市・公益財団法人水戸市国際交流協会



申込み・問合せ



公益財団法人

水戸市国際交流協会

Mito City International Association

〒310-0024 水戸市備前町6-59

(開館時間 午前9時～午後9時 ※月曜は休館)

TEL 029-221-1800

2025年度 重慶市青少年交流訪問団員 募集要項

1 目的

市内の青少年を水戸市の友好交流都市である中華人民共和国・重慶市へ派遣し、中国の同年代の青少年との交流を通して国際的な視野に立つ人材を育成するとともに、両市の相互理解と友好親善を深めます。

2 主催

中華人民共和国重慶市、水戸市、公益財団法人水戸市国際交流協会

3 事業概要

(1) 派遣期間 2025年9月1日(月)～9月6日(土) (6日間)

(2) 派遣先 中華人民共和国 重慶市

(3) 活動内容

ア 重慶市での活動

- ① 重慶市における体験活動への参加
- ② 学校及び市内施設等の訪問・見学
- ③ 重慶市の青少年との交流
- ④ その他

イ 事前研修

重慶市での活動を効果的に行うため、事前研修を行います。

ウ 事後研修及びその他の活動

重慶市での活動内容を報告書にまとめるとともに、今後、公益財団法人水戸市国際交流協会及び水戸市の実施する国際交流推進事業に積極的に参加していただきます。

4 募集人数

18名 ※応募の状況により変更する場合があります。

5 応募資格

下記のすべての資格・条件を満たさない場合は、申込みを受付けません。

- (1) 2024年度の重慶市青少年交流訪問団派遣事業に参加していないこと
- (2) 2025年4月1日現在、満15歳以上40歳未満であること
- (3) 日本国籍を有し、なおかつ下記の①、②いずれかの条件を満たすこと
 - ①本人又は二親等以内の家族が水戸市内に在住している
 - ②水戸市内に通学又は通勤している
- (4) 協調性に富み、事業計画に従って規律ある団体行動及び生活ができること
- (5) 派遣前後に行われる研修に参加し、派遣後も公益財団法人水戸市国際交流協会及び水戸市の国際交流事業に積極的に参加できること

6 応募方法

(1) 提出書類

※ア(参加申込書)中、「自署欄」は応募者の自署とする。また、応募者本人が応募時点で満18歳に満たない場合、アの裏面(承諾事項)の保護者記入欄は保護者の自署とする。

※提出書類は、すべて黒のボールペンで記入すること。

ア 参加申込書(様式第1号) 1通(裏面の承諾事項を含む)

イ 応募者本人の年齢が確認できる公的書類の写し[確認書類一覧の「A」の書類(いずれか1点)]

ウ 水戸市内に居住もしくは水戸市内への通学又は通勤を確認できる書類の写し

① 本人が水戸市内に居住している場合	本人に関する「B」の書類(いずれか1点)
② 二親等以内の家族が水戸市内に居住している場合(①以外)	その家族に関する「B」の書類(いずれか1点: <u>本人との続柄を欄外に明記すること</u>)
③ 本人が水戸市内に通学/通勤している場合(①以外)	本人に関する「C」の書類(いずれか1点)

【確認書類一覧】

A [本人の年齢確認]	B [本人または家族が水戸居住]	C [本人が水戸に通学/通勤]
<ul style="list-style-type: none">・パスポート・運転免許証(表裏両面)・マイナンバーカード(表裏両面)・住民票・健康保険証	<ul style="list-style-type: none">・パスポート・運転免許証(表裏両面)・マイナンバーカード(表裏両面)・住民票	<ul style="list-style-type: none">・学生証・社員証・在学証明書・その他、学校・会社等が発行する在籍証明書類

- (2) 提出期間 2025年6月11日(水)～6月26日(木)
(3) 提出方法 直接窓口に持参又は郵送すること。※郵送の場合は必着
(4) 提出先 公益財団法人水戸市国際交流協会

7 団員の決定

先着順で受付けます。参加可否につきましては、7月2日(水)までに申込書に記載いただいたメールアドレスにお知らせします。
※パスポートを持っていない方、更新が必要な方（有効期限は6か月以上の残存が望ましい）については、団員決定後速やかに取得/更新手続きをしてください。パスポート取得/更新には約2週間を要します。パスポート情報の提出締切は7月16日(水)を予定しております。

8 スケジュール

8月9日(土) 午後1時30分～5時	結団式、渡航説明会、事前研修
8月23日(土) 午後1時30分～4時	事前研修②
9月1日(月)～9月6日(土)	重慶市へ派遣
9月28日(日) 午後1時30分～4時	事後研修及び報告書作成

※結団式及び事前・事後研修は、水戸市国際交流センターにて行います。

9 費 用

この事業に要する費用のうち、次に掲げる費用は、参加者の個人負担とします。

- (1) 水戸市～重慶市間の交通費等：約9万円（燃油サーチャージを含む※1）

※重慶市内滞在中の宿泊費、食費、交通費、その他活動に関わる費用は重慶市が負担します。

- (2) 自由行動時の個人的な費用

- (3) 海外旅行保険料

- (4) その他疾病又は傷害の治療費用

※1 2025年5月上旬現在、燃油サーチャージは2～3万円程度となっており、今後も変動する可能性があります。

10 訪問団員の取消し

訪問団員として決定された後であっても、不適格と認められる行為又は事実があった場合には、資格を取消すことがあります。

11 旅行の取消し

派遣決定後、事業への参加を取りやめたときは、旅行約款に基づくキャンセル料が発生します。宿泊費に関しては重慶市側が負担予定ですが、参加者都合でのキャンセルに起因する費用が発生した場合、その一部または全額をご負担いただく可能性があります。

12 個人情報の取扱い

応募書類に含まれる個人情報については、当協会の個人情報保護規程に基づき厳重に管理し、本事業に付随する業務のために利用します。

応募先/問合せ先 公益財団法人水戸市国際交流協会

〒310-0024 水戸市備前町6番59号

水戸市国際交流センター内（開館時間 午前9時～午後9時 ※月曜日は休館）

TEL : 029-221-1800 FAX : 029-221-5793

E-mail : mcia@mito.ne.jp ホームページ : <https://mitoic.or.jp/jp/>

※本派遣事業は渡航者の安全確保を最優先させますので、今後の国際情勢によっては、応募後であっても中止する場合があります。



2025 年度重慶市青少年交流訪問団報告書

発行日 2025 年 11 月

公益財団法人水戸市国際交流協会
水戸市備前町 6-59 電話 029-221-1800
※今回の報告書に関するお問合せはこちらへ